

平成 26 年度
第 2 回 関東支部運営幹事会

日 時 : 平成 27 年 2 月 5 日 (木) 17:00 ~ 18:30
場 所 : 土木学会関東支部会議室
出席者 : 大嶋支部長、杉山幹事長、栗原副幹事長、玉嶋副幹事長、山本幹事、
中井幹事、永井幹事 (勉)、安井幹事、仲村幹事、清水幹事、
~~永井 (淳)~~ 幹事、影山幹事、水澤幹事、平川幹事、車谷幹事、
高野事務局 落合幹事

第 1 回運営幹事会議事録の確認 資料 1

— 議 事 —

I. 審議事項

1. 平成 27 年度予算案 資料 2
2. 支部内制度の見直し・検討事項
 - ① タスクフォース活動継承部会 資料 3
 - ② 女性支部幹事の登用について
 - ③ シニアサロンについて 資料 4
3. その他

II. 報 告

1. 100 周年記念事業支部展開事業の継続について 資料 5
2. 平成 26 年度活動報告
 - ① 各部会 (企画、技術情報、学術研究、交流、広報、
土木学会認定技術者資格試験実施) 資料 6
 - ② 支部選奨土木遺産選考委員会 資料 7
 - ③ 分 会 (新潟会、山梨会、群馬会、栃木会、茨城会) 資料 8
3. その他

H27. 9. 5 (土) 日大馬場河合ビル

以上

平成 26 年度 第 1 回 関東支部運営幹事会 議事録 (案)

- 日 時 : 平成 26 年 10 月 20 日 (月) 17:00 ~ 19:00
- 場 所 : 土木学会 関東支部 会議室
- 出 席 者 : 杉山幹事長、栗原副幹事長、玉嶋副幹事長、高野事務局長
(技術情報部会) 山本幹事
(学術研究部会) 仲村幹事
(交流部会) 清水幹事、永井幹事
(広報部会) 齋藤幹事
(認定技術者部会) 落合幹事
(選奨土木遺産選考委員会) 福島幹事
(群馬分会) 平川幹事

配布資料

- 資料 1 : 災害時における調査の相互協力に関する協定
- 資料 2 : 支部タスクフォース活動の総括と今後について
- 資料 3 : 土木学会関東支部役員・委員等国内旅費規則 (案)
- 資料 4 : 平成 26 年度功績賞推薦要項
- 資料 5 - 1 : 平成 26 年度 第 2 回企画部会議事録
- 資料 5 - 2 : 技術情報部会報告
- 資料 5 - 3 : 学術研究部会 活動報告
- 資料 5 - 4 : 広報部会 活動報告
- 資料 5 - 5 : 交流部会の活動報告 (中間)
- 資料 6 : 平成 26 年度 第 1 回運営幹事会資料 選奨土木遺産関東支部選考委員会
- 資料 7 - 1 : 土木学会群馬会 平成 26 年度 事業報告 (平成 26 年 8 月~10 月)
- 資料 7 - 2 : 平成 26 年度 茨城会 事業実施報告
- 資料 7 - 3 : 土木学会支部報告事項【新潟会】
- 資料 7 - 4 : 土木学会支部報告事項【山梨会】
- 資料 8 : 土木学会関東支部 26 年度年間スケジュール【10 月 20 日】
- 資料 9 : 文京区向け 公開講座 あなたの『まち』の防災問題を鑑定します!

—議 事—

はじめに

- ・ 杉山幹事長から挨拶
- ・ 新幹事の紹介 平川幹事（群馬分会）

I. 審議事項

1. 支部内制度の見直し・検討事項

① 支部災害調査活動のルール化について 資料1

- 杉山幹事長より資料1の説明があった

以下のような意見があった

- ・ 関東支部管内で災害があった場合、国交省の関東地整からの要請で出動すべきである
- ・ 土木学会本部の災害調査の窓口が決まっていないのは問題ではないか
- 他支部では災害調査活動のルールが規定されていることも踏まえ、関東支部も災害調査活動をルール化することとした
- ルール化の詳細については、企画部会にて検討することとした

② 次年度以降のタスクフォース（TF）活動について 資料2

- 杉山幹事長より資料2の説明があった
- 関東支部のタスクフォースは今年度で活動を終了することとした
- TFとは別に災害対策に関する組織（部会 or 委員会など）を作ることを、企画部会にて検討することとした

③ 支部旅費規定について 資料3

- 杉山幹事長より資料3の説明があった
- 旅費規則（案）の内容で規定することとした。ただし、分会活動には適用しないことを規則の中にいれること。第9条 幹事会 → 運営幹事会 とする。

2. 平成26年度功績賞の推薦について 資料4

- 功績賞の候補者がいる場合、事務局へ連絡してもらおうように出席者へ依頼した

3. その他

- 分会の来年度予算について要望がある場合、杉山幹事長に連絡するように依頼した（予算の増額が認められるかもしれない）。本会に欠席している分会には、事務局から連絡することとした。

II. 報 告

1. 平成 26 年度活動報告

- ① 各部会（企画、技術情報、学術研究、交流、広報、土木学会認定技術者資格試験実施） 資料 5
 - 各部会より活動報告を行った
 - （学術研究部会）第 42 回技術研究発表会現地視察会の日程については、東海大の予定を考慮して決定する（12/17（水）か 12/19（金））
- ② 支部選奨土木遺産選考委員会 資料 6
 - 本年度の支部推薦 8 件、公募枠への推挙 1 件の報告があった
 - 9/5, 6 に行われた土木遺産視察についての報告があった
- ③ 分 会（新潟会、山梨会、群馬会、栃木会、茨城会） 資料 7
 - 群馬部会の平川幹事より事業報告があった
 - 欠席の部会については、資料に基づき事務局より報告があった
 - 事業報告が提出されていない分会があった。今後は必ず提出することとした。（本部事務局も分会事務局と連絡をとり、提出をお願いする）

2. その他

- 来年度の関東支部の総会日は、5 月 15 日に決定したことを報告した

◆平成27年度関東支部予算報告

収支予算書

【関東支部】

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	27年度予算額	26年度予算額	27年度-26年度
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1) 特定資産運用収入	0	0	
(2) 事業収入	2,505,000	2,505,000	
行事収入	2,505,000	2,505,000	
談話会	50,000	50,000	
技術研究発表会	900,000	900,000	
講習会 1	800,000	800,000	
講習会 2	200,000	200,000	
講習会 3	300,000	300,000	
他講習会	200,000	200,000	
土木の日行事	55,000	55,000	
(3) 補助金収入	0	0	
(4) 雑収入	3,000	3,000	
受取利息	3,000	3,000	
雑収入	0	0	
(5) 他会計繰入金収入	27,890,000	27,486,000	
全国大会繰入金	0	0	
その他繰入金	27,890,000	27,486,000	
事業活動収入計	30,398,000	29,994,000	
2. 事業活動支出			
(1) 事業費支出	19,980,000	20,706,510	
行事費	10,766,000	10,610,000	
談話会	175,000	175,000	
技術研究発表会	3,700,000	3,800,000	
講習会 1	250,000	250,000	
講習会 2	250,000	250,000	
講習会 3	233,000	220,000	
他講習会	150,000	150,000	
創立記念事業	0	500,000	
土木の日行事	1,069,000	980,000	
コンクリートカー大会	4,939,000	4,285,000	
調査研究費	2,407,000	3,010,000	
技術情報部会	75,000	218,000	
広報部会	1,045,000	911,000	
学術研究部会	465,000	663,000	
交流部会	120,000	172,000	
企画部会	150,000	170,000	
運営幹事会	177,000	386,000	
選奨土木遺産選考委員会	260,000	318,000	
タスクフォース委員会	50,000	125,000	
資格試験実施部会	65,000	47,000	
表彰費	520,000	1,050,000	
事業管理費支出	6,287,000	6,036,510	
職員給与	2,608,000	2,605,510	
臨時雇人給与	106,000	63,000	
法定福利費	439,000	423,500	
福利厚生費	0	0	
備品消耗品費	132,000	140,000	
發送通信費	126,000	135,000	
水道光熱費	106,000	81,000	

災害対応部会 100,000

科 目	27年度予算額	26年度予算額	27年度-26年度
料 費	2,002,000	1,859,000	
賃 借 料	0	4,500	
施 設 維 持 費	494,000	512,500	
謝 金 賞 金	76,000	0	
旅 費 交 通 費	92,000	120,000	
手 数 料 費	60,000	47,500	
雑 費	46,000	45,000	
(2) 管 理 費 支 出	6,262,000	6,036,510	
与 給 費	2,609,000	2,605,510	
職 員 給 与 費	104,000	63,000	
臨 時 雇 入 費	434,000	423,500	
法 定 福 利 費	0	0	
福 利 厚 生 費	0	0	
備 品 消 耗 品 費	128,000	140,000	
送 通 信 費	124,000	135,000	
水 道 光 熱 費	106,000	81,000	
賃 借 料 費	2,000,000	1,859,000	
施 設 維 持 費	0	4,500	
謝 金 賞 金 費	491,000	512,500	
旅 費 交 通 費	74,000	0	
手 数 料 費	88,000	120,000	
雑 費	60,000	47,500	
雑 費	44,000	45,000	
(3) 他 会 計 繰 入 金 支 出	3,900,000	3,450,000	
事業活動支出計	30,142,000	30,193,020	
事業活動収支差額	256,000	-199,020	
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収支			
特定資産取崩収入	0	0	
記念事業積立預金	0	0	
全国大会積立預金	0	0	
投資活動収入計	0	0	
2. 投資活動支出			
特定資産積立支出			
記念事業積立預金	0	0	
全国大会積立預金	0	0	
退職給付引当預金	210,000	0	
投資活動支出計	210,000	0	
投資活動収支差額	210,000	0	
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	
財務活動収支差額	0	0	
< 当期収支差額 >	46,000	-719,020	
< 前期繰越収支差額 >	4,211,313	4,930,333	
< 次期繰越収支差額 >	4,257,313	4,211,313	

2015.1.26 企画部会 資料-1

1. 支部中期的な運営方針の検討について

- ・歴代支部長・幹事長のお考えを伺うことを前回部会で確認したが、未実施である。
- ・各部会で実施しているプログラムの内容について、見直しの要否、改善の検討など。

2. タスクフォース (TF) 後の組織について

2015.1.13 16:00～17:00 大嶋支部長、支部 TF 幹事長 平野先生 (中央大学)、TF 事務局幹事 田地氏 (清水建設)、杉山出席で打ち合わせを行った。検討・確認した事項は以下の通り。

- ・2014年度で TF の活動は終了する。
- ・支部内に新たに「(仮称) 災害対応部会」を設置する。
この部会は10名ほどのメンバーで構成し、主査1名、副主査1 or 2名、幹事7、8名とする。幹事には、分会から各1名、他に JR、首都高速、NEXCO などから参画いただく (基本的には現幹事内より選任する)。
- ・活動内容は、タスクフォースの活動の継承ではなく、災害時の緊急対応の体制を構築することを一番の目的とし、災害対策、防災・減災のためのセミナーなどの開催を検討する。
- ・セミナーや講習会の実施にあたっては、他の部会と調整する。

以上

平成27年2月5日

1. 活動グループ名

土木学会 関東支部 シニア社会貢献活動グループ (仮称)

2. 設立の背景と目的

土木学会では学生会員からシニア会員まで活動の場を提供することが重要である (特にシニア会員の活動の場が少ない)。これは能動的な会員サービスであり、会員増強の一助にもなる。土木学会の会員増強策の一つとして、会員交流サロンの設置が提言されているところである:「シニア会員の退会抑制策として定期的なサロンを開設し、シニア会員の交流の場を設ける」

そこで、これまでの長いキャリアパスを通じて得た技術、知識、経験が豊富なシニアの土木技術者たちが活躍できる場としてシニア社会貢献活動グループ (仮称) を設立し、防災などの面で一般市民を対象に啓発活動を行うなど社会貢献活動を行うこととする。

3. 主な活動

- 1) 今後の社会資本のあり方などについて討議、検討
気軽に談論風発できる場とする。
外部講師又はシニア会員から新鮮な話を聞き、議論する。
- 2) 各方面へアドバイザー・講師を派遣する出前講座の実施
実践を活動の柱にする。
関東地域づくり協会の出前制度「語り部の会」とコラボする。
- 3) ワークショップ活動
ケースメソッドによる防災マネジメントの普及活動など

4. 活動メンバー

当面、平成26年度のシニアサロン準備会の参加メンバーをコアに、活動を進める。

5. 予算

平成27年度 30万円 上記3. の3項目に各10万円

参考 1

- 1) シニアの範囲: 60歳以上、退職金をもらった者、再雇用・再就職、第一線を退いた者
- 2) 会社の名刺ではなく、土木学会の名刺を使えることが重要。
「土木学会〇〇委員会〇〇アドバイザー 山田太郎」
- 3) 語り部活動のためのPP資料を各専門分野ごとに作成しておく。
- 4) 教育委員会、社会科・地理科の教員へ国土・土木教育実施の働きかけを行う。
- 5) 関東支部の学生部会・チャプター (学生部会) との交流も考えうる。
- 6) 学会HPに発信ページ、「シニア土木技術者通信」(仮称) を開設。
- 7) メンバーの固定化による高齢化を避ける工夫が必要。

参考 2

平成26年度に、準備会を4回開催（昨年6月から本年1月まで）し、活動グループ設立の議論を重ねてきた。

1) 準備会に参加した方々

概ね58歳以上、65歳ぐらいまで 第一線を退いて、再就職した方など
民間・官庁・ゼネコン、コンサル、鉄道 からの出身者 15名ぐらい

2) キーワードは、地域貢献、防災教育、普及活動、語り部、出前講座、アドバイザー、ボランティア、お客様は市民、など

	A-1 「安全な国土の再設計」支部タスクフォース	B-1 若手土木技術者の交流サロン
北海道支部	<ul style="list-style-type: none"> ・現在北海道支部で実施中の事業＝東北支部と共催の「防災講演会」は、今年度(10月函館開催分)で終了し、事業継続とはならない予定です。 ・現在の「北海道支部タスクフォース委員会」についても、本来は本部100周年事業の支部受け皿としての時限的組織であったことから、今年度100周年事業の終了を以て解散となる予定です。 ・今後の活動については、単に「事業継続」という視点ではなく、今後、支部としてどのような活動が望ましく、可能であるかを踏まえて検討していく課題と捉えています。 ・100周年事業からの継承、支部展開を考えるのは、A部会関連テーマのみでなく、B、C部会テーマもあります。既存の支部事業と合わせて今後の支部活動全体を見据えて、投入できる資金とメンバー双方を考慮した、選択と集中の視点で検討することも必要と考えています。 ・以上の視点で、今後の方針について支部内で検討することとしています。 	<p>学生・若手技術者が多数集う支部の研究発表会等に合わせて、WSや交流会の開催企画を検討する。</p>
東北支部	<p>地方整備局、自治体などと協定を結ぶなどして、突発災害対応のみならず、事前の備えに関しても協力する体制を構築し、必要に応じて受託研究などを受ければ良い、支部独自の事業として、防災に関するシンポジウムを毎年開催している。</p>	<p>若手土木技術者の個人に対する土木学会からの還元、すなわち土木学会員であることのメリットが希薄であり、経費削減という観点よりも、如何に若手会員の学会離れを防ぐかを真剣に検討するべき。</p>
関東支部	<p>今後のあり方を現在検討中である。</p>	<p>交流部会を中心にこれからも継続する予定である。</p>
中部支部	<p>「中部地方巨大災害タスクフォース」の活動を今後も継続していくが、内容については現在検討中。</p>	<p>学生と土木技術者との交流会を継続して実施していく。授業の一環として行うことにより、会場使用料等の経費を節減する。</p>
関西支部	<p>「支部内自治体との災害時における相互協力に関する協定締結」、「一般市民(小中高大学生を含む)を対象とした防災意識の啓発講習会」および「一般市民が専門家とともに現地をみる巡検プログラム」の安定的な実施あるいは開催が実現している。また、「阪神・淡路大震災20周年シンポジウム」の実施に向けた準備も進んでいる。このため、あらためてタスクフォースで統一的な目標を掲げて、その目標の下で新たな事業を展開するには人員がきわめて不足する事態が見込まれる。支部としては、これまで通りの「安全な国土への再設計」に向けた緩やかな目標の下での上記事業継続をお認めいただきたい。</p>	<p>趣旨をまったく同一とし、活動内容もきわめて共通している関西支部事業の「ぶら・土木」が、若手土木技術者の交流サロンに先立ち実施されてきており、その内容もマンネリ化しないように議論、計画され、有意義に展開できていると考えている。同一趣旨事業をあらためて増やすことは、不経済かつ労力の面で得策でないとする。このことから、当該事業については、「ぶら・土木」に対する支部内予算で継続することとして、開催にあたって行事タイトルとしてサブタイトルに当該事業名の利用をご許可いただき、「ぶら・土木 若手土木技術者の交流サロン」として開催してまいりたい。なお、「ぶら・土木」の行事名は、長年の多くの支部内議論を通して決定した経緯もあり、支部として矜持をもっていることから、容易な置き換えは困難であることをご理解願えれば幸いである。</p>
中国支部	<p>ニーズはあるが、市民交流的な内容のところと学術的なところを切り離して前者のみを運営するほうが、内容をイメージしやすい。後者は学会が抱えるか、あるいは既存の委員会に整理吸収する方向で。</p>	<p>支部巡回開催、全国大会にあわせたり、分野別の委員会で持ちまわり開催する/委員会間の相乗り開催などを積極的に奨励。</p>
四国支部	<p>調査研究成果を一般に向けて情報発信するためにも、「防災講演会」等は活動主体に関わらず継続的に実施すべきと考える。 100周年記念事業として予算が確保されたので四国支部タスクフォースが活動主体として「防災講演会」を企画することができたが、継続的に開催するための予算・マンパワー等を支部で負担するのは困難である。 本部からの予算がなくなれば、四国支部タスクフォース主催の防災講演会等は休止せざるを得ないと考える。 方策として、講演会の実施内容等に限られるが、既存の支部主催の特別講演に移行することが考えられる。 この場合、名称は「四国支部タスクフォース主催」から「支部主催」に変更する必要がある。</p>	<p>好感を得た事業であり、次年度以降も継続して開催したい気持ちはあるが、支部単独事業として継続的に実施していくことは予算・マンパワー的にみて困難。 本部からのご支援をいただけるのであれば、技術研究発表会等と抱き合わせて開催することにより、予算の削減は図りたい。</p>
西部支部	<p>西部支部では、調査研究委員会の活動として再来年度(H27年度)までの継続は既に決定しているが、それ以降の実施に関しては現在は未決定である。支部内で今後の事業継続について話し合いを行っている。</p>	

	B-2 未来のT&Iコンテスト	C-1 市民普請大賞
北海道支部		
東北支部	支部ごとに実施する必要は無く、賞金・賞品を充実させて応募者のモチベーションをアップする、イベントを広報活動に利用する(マスコミ報道)ためにも、本部で集約して実施すべきと考える。	支部ごとに実施する必要は無く、賞金・賞品を充実させて応募者のモチベーションをアップする、イベントを広報活動に利用する(マスコミ報道)ためにも、本部で集約して実施すべきと考える。
関東支部		
中部支部		
関西支部	100周年で展開した方法(支部として募集等で協力)での継続が望ましく、また、毎年の開催は労力的に厳しいものとする。	100周年で展開した方法(支部として募集等で協力)での継続が望ましく、また、毎年の開催は労力的に厳しいものとする。
中国支部	発想は面白いがサブテーマを限定したほうが考えやすい。ロボコンの土木学会版と考えるべき。審査員やサブテーマ提案者に話題性のある人を入れて隔年、または3~4年に1回の開催	
四国支部	本年度に、100周年事業として本部主導で実施した方法での継続を希望する。 支部としては、募集等で側面から協力していきたい。 (四国支部では未実施)	本年度に、100周年事業として本部主導で実施した方法での継続を希望する。 支部としては、募集等で側面から協力していきたい。 (四国支部では未実施)
西部支部		今回の100周年で実施したやり方での協力は可能であるが、今後、毎年の開催は金銭的・労力的に厳しと考えられるので、3年に1回程度の開催にして予算を縮減したほうが継続していくと考えられる。

	C-2 土木ふれあいフェスタ	C-3 土木コレクション
北海道支部		開催頻度(ex隔年など)・規模を開催可能なもので検討しつつ、他組織(北海道土木技術会)の「土木の日パネル展」との共催企画として検討していく。
東北支部	他のイベント(土木学会, その他団体)との共催を模索する。地域特産品の展示即売会などを企画して併催する。これらの100周年事業のエッセンスを、これまで支部で行ってきた現場見学会や土木技術を語る会などの市民交流事業に組み入れる形で生かしていきたい。	他のイベント(土木学会, その他団体)との共催を模索する。地域特産品の展示即売会などを企画して併催する。これらの100周年事業のエッセンスを、これまで支部で行ってきた現場見学会や土木技術を語る会などの市民交流事業に組み入れる形で生かしていきたい。
関東支部	名称は異なるが、交流部会での「現場見学会」・広報部会での「親子見学会」・企業等の協力による「技術研究所見学会」を開催する。これからも土木学会の普及を念頭に、一般市民が親しみやすく、楽しいイベントを考案していきたい。	支部の技研究発表会会場においてミニ土木コレクションとして開催地にゆかりのパネルを展示できればと考えている。
中部支部	各種関係団体に出演していただく場合、各団体ごと個別に出演内容やスタッフなど事前の調整などで時間・手間を要するので、どの支部でも共通に行える定型的な出展だけとする。(=出展ブースのセットを概ね固定し、必要なスペース・人員や運営など、マニュアルも用意しておく。イスや机など以外のセットは本部で準備して貸し出す、又は、印刷等容易に作成できるようにしておくなど。)	パネルは重く設置等も業者委託になるので、紙で印刷できるようにし、運搬・設置が容易な形式にしておく。パネルに表示された内容に精通し、質問等に適切に対処できる人材を派遣する。(当日現場での、支部応援スタッフの負担軽減)
関西支部	趣旨をまったく同一とし、活動内容もきわめて共通している関西支部事業が多数存在し、その内容もマンネリ化しないように議論、計画され、有意義に展開できていると考えている。同一趣旨事業をあらためて増やすことは、不経済かつ労力の面で得策でないと考え、このことから、当該事業については、支部内予算で継続することとして、開催にあたって行事タイトルとしてサブタイトルに当該事業名の利用をご許可いただき、例えば「夏休み親子土木実験教室—土木ふれあいフェスタ—」等として開催してまいりたい。	100周年で実施したスタイルでの毎年の開催は難しい。パネルの簡易版あるいはデジタルコンテンツ化を図り、他の市民交流型事業、例えば土木カフェやふれあいフェスタ開催にあわせて、テーマに沿った一部のコンテンツを簡易に利用させていただく形態が望ましいと考える。毎年のフルコンテンツでの開催(全国大会併催、土木の日事業など)が望ましいのであれば、本部主導で運営していただくのが適当と考える。
中国支部	お祭りなどのイベントに密着させるのが良い。頻度と規模は落としても良い。土木コレクションとの共催は、客層が異なる。	パネルを止めて紙や布のポスターにするなど、搬送コストを下げる素材に変更する。架台に凝ると搬出搬入に無駄な手間がかかるので、使用しないか、あるいは組み立て式のものを別途開発してそちらに変更する。
四国支部	四国の場合は4地区に分散していることに加え、地区に核となる大学が1つしかなく更に財政的にも、支部単独事業として継続的に実施することは予算・マンパワー的に困難。 但し、110周年、120周年といった節目の事業(本部主催で支部への支援有)であれば計画的な実施については可能である。	現在作成されているパネルでは、パネル展示をすれば会場費・展示用機材、輸送費等の費用が多額になり、予算・マンパワーにも困難な要素が大きいので、土木コレクションパネルをA1ないしB1サイズのポスターに作成し、各支部において管理すれば初期費用は本部からの予算措置が必要だが、一度作成してしまえば回して使えるのでポスター展示を希望する団体などから郵送料だけ払っていただければ支部の持ち出しは少ないと考えられる。 また、ポスターになった土木コレクションであれば、建設フェア、土木の日の前後のJR高松駅(JR四国の協力が必要)、各大学のオープンキャンパスなどで展示可能(経費と多大なマンパワーが発生するような展示はしない。)となり、幅広く活用することができる。
西部支部		予算的な支援が得られるのであれば実施する方向で考えるが、毎年の開催は金銭的・労力的に非常に厳しい。

	C-4 どぼくカフェ	D-1 日本-韓国-台湾ジョイントセミナー
北海道支部	他の組織の活動(モビリティカフェなど)との共催企画として検討していく。	
東北支部	他のイベント(土木学会, その他団体)との共催を模索する。地域特産品の展示即売会などを企画して併催する。 これらの100周年事業のエッセンスを、これまで支部で行ってきた現場見学会や土木技術を語る会などの市民交流事業に組み入れる形で生かしていきたい。	
関東支部	広報部会及びスチューデントチャプターを中心に、土木への関心が若い世代へ伝わるよう話題等を工夫しながら、継続する予定である。	
中部支部	会場等各種制限により、飲食の提供が困難なことがある。来場者への飲食提供(「カフェ」という点)にこだわらなくてもよいこととする。また、イベント内容をビデオ撮影しておき、ビデオ上映会として行ってもよい。	
関西支部	関西支部発の行事として、今後も支部予算を充てて継続、発展させていく予定である。なお、当該行事は、小規模かつ比較的小労力ながら「市民交流」の目的に効果的に貢献できているとして、各支部にも好評いただいている。このことから、今後も全国展開が進むならば、関西支部からの協力を惜しまない考えであって、各地への人員派遣等に要する旅費を随時申請させていただける状況が整備されれば幸いと考えている。	支部主催としての実施は難しく、参加者の募集を含めた西部支部への協力が妥当であると考えている。
中国支部	面白い試みだと思う。講師のデータベース整備を関西支部と本部の連携で行うと、他支部でも展開しやすい。ただし頻度は下げて。	
四国支部	好感を得た事業であり、次年度以降も継続して開催したい気持ちはあるが、支部単独事業として継続的に実施していくことは予算・マンパワー的にみて困難。 本部からのご支援をいただけるのであれば、年に1地区の企画は可能と考えられる。	支部主催での実施は難しいため、募集等で側面から協力していきたい。(四国支部では未実施)
西部支部	今後、西部支部内で今回と同様の企画を試行的に実施する予定にしている。今後も継続させて行くためには、各機関の方々に協力いただいて、一般市民向けの企画を実施していきたい。ただし、実施する予算などに関しては今後、検討をしていく。	予算的な面で、現在の学校関係者と学生だけの交流ではなくて、民間企業に積極的に加わっていただいで協力をお願いする等が必要と考える。

平成 26 年度企画部会活動報告 —H27.2.5 運営幹事会資料—

◆第 1 回

日 時：平成 26 年 7 月 11 日 18 時より

場 所：関東支部会議室

議 事：1. 土木学会創立 100 周年記念事業について

①各種記念事業の実施

②記念式典への参加

2. 支部運営方針の検討

3. 若手会員の活動推進

①若手技術者交流サロン

②スチューデントチャプターの活動推進

4. 土木の日関連企画の確認

5. 支部災害調査活動のルール化

◆第 2 回

日 時：平成 26 年 10 月 6 日 18 時より

場 所：関東支部会議室

議 事：1. 中期的な支部運営方針

2. 若手会員の活動推進

3. 支部災害調査活動のルール化

4. TF 活動の総括と今後

5. 支部活性化のための新規事業

6. 関東支部旅費規程の作成

7. 100 周年記念式典・記念祝賀会の参加について

報 告：土木の日実行委員会報告

◆第 3 回

日 時：平成 27 年 1 月 26 日 17 時より

場 所：関東支部会議室

議 事：1. 中期的な支部運営方針

2. 支部活性化のための新規事業

3. 100 周年記念事業支部展開事業の継続について

3.1 TF 後の部会設置について

3.2 (仮称) 若手会員パワーアップ小委員会委員推薦について

3.3 土木コレクションについて

4. 支部をベースとするシビルネット活動について → 1 支部 35 万

5. 女性支部幹事の登用について

◆第 4 回

次期総会前に開催予定

2015年2月5日

技術情報部会報告

1. 土木コレクション

① 7月 銀座

①行幸地下ギャラリー

- ・開催日 2014年9月20日(土)～10月31日(金)
- ・場所 東京駅行幸地下ギャラリー

②新宿駅西口

- ・開催日 2014年11月19日(水)～11月22日(土)
- ・場所 新宿駅西口広場イベントコーナー

③東海大学

- ・開催日 2015年3月5日(木)～3月6日(金)
- ・場所 東海大学湘南キャンパス → 20枚

2. 講習会

①「東京都の長期ビジョンと2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた計画について」

1. 期日 2015年2月4日(水) 13:00～17:00
2. 場所 土木学会本部2階大講堂
3. プログラム
「東京都長期ビジョン」について
「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた輸送・インフラ整備の計画」について
4. 参加者 119名

②「土木技術者に求められる資質と素養」

－ 技術士(建設部門)第二次試験受験のための実践講習会(演習付)第26回－

1. 期日 2015年4月10日(金) 9:30～17:00
2. 場所 土木学会本部2階大講堂
3. 会費 会員10,000円 非会員15,000円

2015.2.5

平成26年度第2回運営幹事会資料

学術研究部会の活動報告

1. 活動実績

- 平成26年 7月18日 第1回部会開催【関東支部】
平成26年10月 3日 第2回部会開催【関東支部】
平成26年12月19日 第42回技術研究発表会会場視察【東海大学湘南キャンパス】
平成27年 1月23日 第3回部会（プログラム編成会議）開催【東京都市大学世田谷キャンパス】

2. 今後の予定

- 平成27年2月25日 第4回部会（研究発表会直前準備・打ち合わせ）【関東支部】
平成27年3月 5日 第42回技術研究発表会1日目【東海大学湘南キャンパス】※1
平成27年3月 6日 第42回技術研究発表会2日目【東海大学湘南キャンパス】※1
平成27年3月27日 第5回部会（研究発表会反省会）【関東支部】

3. 第42回技術研究発表会について※1

- ・ 投稿数462件。プログラム編成完了，CD-ROMなど発送準備中
- ・ 若手セミナーについて 開催方法・広報など？

若手交流サロン
2/9 まで = ITスタ-

4. 今後の技術研究発表会開催校について

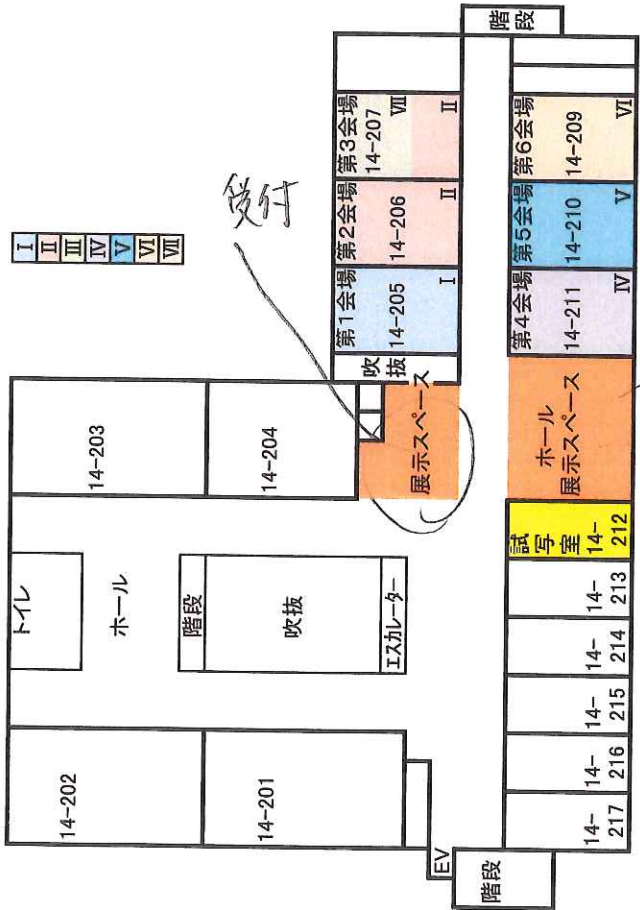
- 第43回（平成28年3月）：東京都市大学にて開催予定。
第44回以降，未定 候補校の募集もしくは直接打診。

以上

第42回 土木学会関東支部 技術研究発表会 プログラム/スケジュール

会場番号 建物 階 教室番号 部門	1日目 3月5日				15:25 ~ 16:50	17:00 ~ 19:00	2日目 3月6日					
	研究発表会① 10:00~11:30	昼食	研究発表会② 12:20~13:40	研究発表会③ 13:50~15:10			研究発表会④ 10:00~11:30	昼食	研究発表会⑤ 12:20~13:40	研究発表会⑥ 13:50~15:10		
第1会場 14号館2階 14-205 第I部門	I① 合成構造/ 座屈・耐荷力 穴見 健吾 (芝浦工業大学) I-1~7		I② 維持管理(1) 瀬尾 高宏 (JFE) I-8~14	I③ 維持管理(1)/ 構造一般(1) 中藤 誠二 (関東学院大学) I-15~21	特別 講演 会	懇 親 会	I⑦ 橋梁工学(2)/ 構造一般(2) 笠野 英行 (早稲田大学) I-43~49		I⑧ 耐風・風工学/ 構造振動 長谷部 寛 (日本大学) I-50~54			
第9会場 14号館3階 14-308 第I部門	I④ 国学・環境問題 (1) 谷口 望 (前橋工科大学) I-22~28		I⑤ 国学・環境問題 (2) 岸 祐介 (首都大学東京) I-29~35	I⑥ 計算力学(1) 紅露 一寛 (新潟大学) I-36~42					I⑨ 計算力学(2) 斎藤 隆泰 (群馬大学) I-55~61		I⑩ 計算力学(3) 石井 建樹 (木更津工業高等 専門学校) I-62~68	I⑪ 計算力学(4) 車谷 麻緒 (茨城大学) I-69~75
第2会場 14号館2階 14-206 第II部門	II① 河川環境(1) 青木 宗之 (東洋大学) II-1~8		II② 河川環境(2) 石川 雅朗 (木更津工業高等 専門学校) II-9~15	II③ 河川工学(1) 道奥 康治 (法政大学) II-16~23					II⑦ 河川工学(2) 福井 吉孝 (法政大学) II-48~55		II⑧ 河川環境(3) 傳田 正利 (土木研究所) II-56~62	II⑨ 河川工学(3) 本永 良樹 (河川情報 センター) II-63~70
第8会場 14号館3階 14-307 第II部門	II④ 海岸工学・ 海岸環境(1) 飯村 耕介 (宇都宮大学 大学院) II-24~31		II⑤ 水文気象・ 流域水文(1) 小田 僚子 (千葉工業大学) II-32~38	II⑥ 海岸工学・ 海岸環境(2) 長山 昭夫 (群馬工業高等専 門学校) II-39~47					II⑩ 水文気象・ 流域水文(2) 多田 毅 (防衛大学校) II-71~78		II⑪ 水文気象・ 流域水文(3) 佐山 敬洋 (土木研究所) II-79~86	
第3会場 14号館2階 14-207 第VII/III部門	VII① 環境影響評価(1) 長岡 裕 (東京都市大学) VII-1~7		VII② 環境影響評価(2) 松橋 学 (国土技術政策総 合研究所) VII-8~14	VII③ 地下水・廃棄 物 辻 幸志 (日本下水道事業 団) VII-15~20					II⑫ 環境水理・ 基礎水理(1) 池田 裕一 (宇都宮大学 大学院) II-87~92		II⑬ 環境水理・ 基礎水理(2) 内田 龍彦 (中央大学) II-93~98	
第10会場 14号館3階 14-312 第VII部門	VII④ 水環境(1) 羽深 昭 (中央大学) VII-21~27		VII⑤ 水環境(2) 小沼 晋 (日本大学) VII-28~34	VII⑥ 音・振動・住環境 村上 和仁 (千葉工業大学) VII-35~40					VII⑦ 上水道 宮里 直樹 (群馬工業高等 専門学校) VII-41~47		VII⑧ 下水道 吉田 征史 (日本大学) VII-48~54	
第7会場 14号館3階 14-306 第III部門	III① 補強土・ 新土質材料 矢島 寿一 (明星大学) III-1~9		III② 土の変形・強度・ 破壊・安定① 鎌尾 彰司 (日本大学) III-10~15	III③ 施工・管理・ 調査・計測 清水 英樹 (前田建設工業) III-16~23					III④ 基礎および 地下構造物 坂梨 利男 (鹿島建設) III-24~31		III⑤ 土盤の動的性 能 橋本 隆雄 (千代田 コンサルタント) III-32~38	III⑥ 土の変形・強度・ 破壊・安定② 海野 寿康 (宇都宮大学 大学院) III-39~46
第4会場 14号館2階 14-211 第IV部門	IV① 防災(1) 伊東 英幸 (日本大学) IV-1~7		IV② 防災(2) 森本 章倫 (早稲田大学) IV-8~14	IV③ 交通計画・物流 長田 哲平 (宇都宮大学 大学院) IV-15~21					IV⑦ 土木遺産・景観 築瀬 範彦 (足利工業大学) IV-43~49		IV⑧ 安全・安心 遠藤 玲 (芝浦工業大学) IV-50~56	IV⑨ 測量・CAD・GIS 大山 勲 (山梨大学) IV-57~63
第12会場 14号館3階 14-310 第IV部門	IV④ 交通 シミュレーション 武藤 慎一 (山梨大学) IV-22~28		IV⑤ 時間信頼性・ 交通調査 石坂 哲宏 (日本大学) IV-29~35	IV⑥ 土地利用 阪田 和哉 (宇都宮大学 大学院) IV-36~42					IV⑩ コミュニティ交通 佐々木 邦明 (山梨大学) IV-64~70		IV⑪ 観光・地域活性化 島崎 彦人 (木更津工業高等 専門学校) IV-71~77	
第5会場 14号館2階 14-210 第V部門	V① フレッシュ・硬化コ ンクリートの性質 (1) 高橋 佑弥 (東京大学) V-1~7		V② フレッシュ・硬化コ ンクリートの性質 (2) 三田 勝也 (東京理科大学) V-8~14	V③ フレッシュ・硬化コ ンクリートの性質 (3) 黒田 一郎 (防衛大学校) V-15~21					V④ コンクリート構造 物の維持・補修 (1) 大野 健太郎 (首都大学東京) V-40~46		V⑤ コンクリート構造 物の維持・補修 (2)・鉄筋コン クリート 伊代田 岳史 (芝浦工業大学) V-47~53	V⑥ 舗装一般・ 路面評価 小関 裕二 (大林道路) V-54~58
第11会場 14号館3階 14-311 第V部門	V④ 非破壊検査・ 診断(1) 岡崎 慎一郎 (港湾空港技術 研究所) V-22~27		V⑤ 非破壊検査・ 診断(2) 谷口 修 (五洋建設) V-28~33	V⑥ コンクリート施工 郭 度連 (太平洋 マテリアル) V-34~39					V⑩ コンクリート用材 料 青木 優介 (木更津工業高等 専門学校) V-59~65		V⑪ 特殊コンクリート・ プレキャストコン クリート 須藤 裕司 (日産化学工業) V-66~72	【表示の凡例】 部門 セッション名 座長 (座長所属) 講演番号
第6会場 14号館2階 14-209 第VI部門	VI① 技術開発 馬野 浩二 (鹿島建設) VI-1~7		VI② 施工計画・ 施工管理(1) 後藤 浩之 (フジタ) VI-8~14	VI③ 施工計画・ 施工管理(2) 後藤 浩之 (フジタ) VI-15~20					VI④ 維持補修 平井 孝幸 (清水建設) VI-21~27		VI⑤ 鉄道工学(1) 松本 江基 (安藤・間) VI-28~34	VI⑥ 鉄道工学(2) 松本 江基 (安藤・間) VI-35~40

2階



3階



1階



企業展示

エボル等

平成26年度交流部会の活動報告（年度末）

1. 幹事の交代と今年度の体制

増田昌弘氏（鹿島建設）が平成25年度をもって主査を退任され、後任として永井淳一郎氏（鹿島建設）が副主査として着任された。また、白瀬光泰氏（大成建設）に代わり、小野 誠氏（大成建設）が幹事として加わった。次年度の体制を以下に示す（順不同・敬称略）。

主査：清水英樹（前田建設）・副主査：永井淳一郎（鹿島建設）・池田国隆（東京都）・内田富雄（埼玉県）・小野 誠（大成建設）・金谷篤応（鉄建建設）・金子雄一郎（日本大学）・栗原哲彦（東京都市大学）・黒木 幹（福山コンサルタント）・清水規昭（清水建設）・広瀬知晃（オリエンタルコンサルタンツ）
以上11名

2. 部会開催実績&予定

5月18日、6月16日、7月28日、8月27日、9月22日、11月4日、12月18日、1月16日に8回開催。次回は月日に開催予定。

3. 談話会

今年度のこれまでの開催実績と次年度以降の予定を下表に示す。

開催日	講演題目	講師(敬称略)	参加人数
2014.5.26	江戸時代の土木技術を探る	松本精一(西島製作所)	22
2014.6.24	日本における洋上風力発電の導入と課題	宇佐美栄治(鹿島建設)	45
2014.9.5	世界に誇るわが国の木造建造物を、いかにして守り伝えてきたか	松本高広(松本社寺建設)	27
2014.10.27	歴史的遺産の状態保存に資する洗浄技術	大塚健郎(ケルヒャー・ジャパン)	8
2015.3.11	世界初！供用中新幹線軌道の直上での高架橋架設「東北縦貫線【上野東京ライン】の施工について」	永田所長(鹿島建設)	
2015.4.以降	ビッグデータ・オープンデータの交通計画への活用事例	轟先生(日本大学)	

4. 100周年記念事業；若手技術者交流サロン

実施日時：2014年10月31日(金) 17:00～19:00

会場：土木学会講堂

参加者：学生10名、社会人11名、幹事4名、大嶋支部長、高野事務局長

- ・ 通算4回目となる今回の若手交流サロンは、就活直前の学部3年生でも、意見が出しやすいテーマとして、「災害ゼロ立国に向けて土木技術者が果たす役割」(仮)とし、事前に周知の上、当日までに自分の考えをまとめて来てもらうこととした。
- ・ 自己紹介を兼ねて、各自の考えを述べてもらい、リーダーが意見を集約して、そのテーブルのディスカッションテーマを選定する形式とした(所要時間15分程度)。
- ・ その後、テーブルごとにフリーディスカッションしてもらい、「災害ゼロを実現するために、いつまでに、誰が、何を、どのように進めるか」といった考えをまとめてもらい、プレゼン発表。
- ・ テーブルを3つに分け、学生3～4名、社会人3～4名(ゼネコン・コンサルの混成)で構成し、

交流部会幹事がファシリテーターを務めた。

- ・ 日建連、建設コンサルタンツ協会、関東支部スチューデントチャプターのご協力を得た。
- ・ 栗原幹事、金子幹事には指導教官として、学生に参加要請のご協力をいただいた。
- ・ スチューデントチャプターの学生諸氏はディスカッションの活発化とプレゼン発表等にリーダーシップを如何なく発揮していただいた。次回の開催には企画段階から参加していただくよう打診する。

5. 第16回「土木のある風景」写真コンテスト（土木の日記念行事）

- ・ すでに会告文を作成し、学会ホームページならびにメルマガにて配信済み
- ・ 応募期間は2014年11月18日（火）（土木の日）から2015年2月27日（金）までとする。
- ・ 今回の募集より、写真の提出形式をデジタルに限定し、プリント提出する場合にも必ずデジタルデータを添付するなどを明記した。
- ・ 12月19日（金）に開催された関東支部技術研究発表会の会場（東海大学・湘南キャンパス）視察の結果、作品の展示場所は14号館2階のエスカレータを昇ったホール脇とし、ドボコレと併せての展示とする。
- ・ 来場者による投票審査の結果で最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作3点を選定。入賞者は支部総会で表彰するとともに、作品はポスターにして総会参加者や関係各所に配布するのは例年通り。
- ・ 入賞者への通知とポスター作製は高野事務局長に依頼。また、入賞作品は関東支部ホームページにアップする。

6. 土木の日現場見学会

■ 平成26年度

実施日：2014年11月13日（木）

見学場所：「外環千葉県工区・京成菅野駅立体交差化工事」および「千住関屋ポンプ所建設工事」

参加者：参加者は34名（当日キャンセル1名）＋幹事8名＋取材1名（セメント新聞・麻生氏）の計43名であった。

- ・ 両現場とも都心で見られるビッグプロジェクトとして、見応えがあり、好評であった。ご協力いただいた幹事、JVはじめとする関係各位に感謝申し上げます。
- ・ 反省点としては、バス会社の対応の悪さから、京成菅野駅の出発が遅れた上に道路の渋滞により、1時間以上も千住関屋への到着が遅れ、午後の部を段取りしていただいた東京都下水道局・大林JVにご迷惑をかけてしまった。
- ・ 打合せは旅行代理店である大成ツーリストと行っていたが、細かい指示が全くドライバーには伝わっていなかった。次年度は、旅行代理店を通さず、広報部会が親子見学会で使用しているJRバスに切り替えることを申し合わせ、広報部会の水澤副主査に相談する。

以上

平成26年度 土木学会関東支部 広報部会 活動報告

1. 活動方針

一般の人および若年者を対象とした各種の見学会、学生の交流の場を提供する行事を企画・実施し、土木の広報に努める。

2. 活動報告

①第20回土木系学生によるコンクリートカヌー大会 【実施済】

(土木学会100周年記念杯)

目的：土木の主材料によるコンクリートでカヌーを作り、ものづくりの楽しさを学生たちに実感してもらう

日時：平成26年8月30日(土) 10:00～

場所：荒川調節池“彩湖”(戸田市)

主催：土木学会関東支部

協賛：国土交通省関東地方整備局、(株) 日刊建設工業新聞社、(株) 日刊建設通信新聞社、(株) セメント新聞社

後援：戸田市

参加：大学・高専の部 10校 13チーム
高校の部 22校 28チーム

結果：

◆総合順位

- 1位：レース順位 1位, プレゼン審査 46点, 合計点 96点【宮城県立石巻工業高校 Ishikou10】
2位：レース順位 2位, プレゼン審査 49点, 合計点 94点【宮城県立石巻工業高校 Ishikou11】
3位：レース順位 3位, プレゼン審査 40点, 合計点 80点【祐誠高校 C-HawksXIV】

◆技術賞

- (大学・高専の部) 得票数 13票【横浜国立大学大学院 Yield Point】
(高校の部) 得票数 11票【秋田県立大曲工業高校 Majestic RK-V】

◆競漕の部

- (大学・高専の部) 1位：【日大生産工学部 N.】
(高校の部) 1位：【宮城県立石巻工業高校 Ishikou10】

◆デザイン賞(日刊建設工業新聞社賞)

得票数 10票【足利工業大学 太子 GIRL】

◆セメント賞(セメント新聞社賞)

セメント量 50kg【祐誠高校 C-HawksXIV】

◆敢闘賞(日刊建設通信新聞社賞)

敗者復活戦中最速タイム 2分59秒【栃木県立宇都宮工業高校 EGRETТА】

◆土木学会100周年特別賞

- ・唯一の20回連続出場【足利工業大学】
・高校の部にて第2回大会からの連続出場かつ最多出場艇25回【栃木県立宇都宮工業高校】

② 第12回親子見学会 (土木の日関連行事)【実施済】

目的：将来を担う子供たちに土木技術のすばらしさを知ってもらう。

日時：平成26年11月22日(土)

場所：JR池袋駅集合(8:45)

⇒相鉄・JR直通線西谷トンネル工事現場見学

⇒鶴見川流域センター内で防災学習、昼食

⇒白子川地下調節池工事現場見学

⇒JR池袋駅解散(16:30)

参加：32名(大人16名、子供16名)

③ 技術研究所見学会(土木の日関連行事)【実施済】

目的：一般の方や学生に、先端の土木技術を知ってもらう。

日時：平成26年11月18日前後

場所：各機関の技術研究所

参加：対象地区の教育委員会にお願い状を送付し、見学に来てもらうよう要請
14機関 約1500名

④ 第3回土木カフェ【実施済】

目的：広い意味で土木と関連づけられるテーマに対して、一般の方から話題を提供してもらい、街中のオープンな場所などで講演・情報交換を行うことで、土木と一般の方々との新しい関係の構築を模索する。

学生団体の活動を展開し、学生たちによる企画・運営とすることで、今後の土木を支える若い世代の主体的な活動を推進する。

日時：平成26年12月16日(火)18:00~19:30

場所：SHIBAURA HOUSE 1F(100m²天井高5.2mのガラス張りのオープンスペース)

講演者：鉄道総合技術研究所 佐藤新二様

テーマ：地震発生時いち早く新幹線を止める

参加：社会人および大学生 約40名

※2014年(年度2回開催)

⑤ 関東支部メルマガ配信

配信対象：配信希望をされた土木学会関東支部内在住会員及び一般の方

配信内容：土木学会関東支部が実施する諸活動・行事の案内

会員が実施する諸活動のご案内(会員からの情報提供)

配信頻度：月2回の定期的な配信(1日と15日)を基本とする。

配信実績：105回(平成26年1月末)

⑥ その他

- ・ 関東支部ホームページの維持、更新

3. 部会開催予定

- ・ 年9回程度の部会を開催
- ・ 今年度は8回を実施済み

h26 土木学会関東支部 第2回運営幹事会資料 (2015.2.5)

選奨土木遺産関東支部選考委員会報告

足利工業大学 福島二郎

1. 平成26年度第2回選奨土木遺産支部選考委員会報告

(1) 日時 2014年12月2日(火) 16:00~17:50

(2) 場所 土木学会関東支部会議室

(3) 報告事項

①平成26年度土木学会選奨土木遺産の公表について

*9月26日開催の理事会決定を受け、土木学会名で10月10日に公表された。

*本年度認定:22件。内、関東支部:9件(支部推薦8件、公募1件)。

②平成26年度土木遺産視察研修について

*議題3でまとめて報告・説明。

(4) 議題

①平成26年度土木学会選奨土木遺産の認定書授与式およびプレス報道等について

*各都県で行われた授与式およびプレス報道について、順次報告・説明があった。

- ・敷島浄水場配水塔(群馬):11月14日現地開催。上毛新聞等、資料有り。
- ・堀切橋(埼玉):11月25日行田市役所市長応接室。埼玉新聞等、資料有り。
- ・水戸市低区配水塔(茨城):12月3日茨城県産業会館で開催の第11回茨城会イブニングセミナーで授与式を行う予定(後日、写真等の資料を提出する)。
- ・日光稻荷川流域の砂防堰堤群(栃木):11月10日栃木県総合文化センター。下野新聞等、資料有り。
- ・成宗電車第一、第二トンネル(千葉):11月12日成田市役所市長応接室、(記念式典11月13日)。読売新聞等、資料有り。
- ・信越線太田切橋りょう(新潟):11月17日新潟日報メディアシップ『日報ホール』。新潟日報等、資料有り。
- ・羽村取水堰(東京):11月20日東京都水道局長室。読売新聞等、資料有り。
- ・江ノ島電鉄(神奈川):11月19日藤沢商工会館。朝日新聞等、資料有り。
- ・旧親不知トンネル(新潟):10月29日糸魚川市長定例記者懇談会で報告。さらに北陸新幹線開業イベントを3月末日に計画しており、その中で授与式等を予定。新潟日報等、資料有り。

②次年度の選奨候補について

*平成27年度候補として7件の資料が提出され、候補遺産の特徴および管理者との打合せの現状等について説明があった。次回委員会までに、管理者との調整等を踏まえ、さらに構造形式・評価・地域性等、詳細な資料を提出することとした。

③次年度の土木遺産視察について

*本年度の群馬県内視察(9月5日・6日実施:坂尾委員担当)

視察施設:柳瀬橋・雄川堰・只川橋・剣崎浄水場・前橋利根川の護岸と水制・敷島浄水場・榛名山麓砂防堰堤群・吾嬬橋(8施設)

参加者:澤畠委員・中藤委員・坂尾委員・松岡委員・阿部貴弘先生・福島

*平成27年度は神奈川県で開催することに決定。企画は山崎委員が担当する。

④HP更新・充実について

*今津委員から本年度認定遺産のHPupの作業状況について説明があった。選奨土木遺産選考委員会全体会議で使用した資料を基に、現在のフォーマットに合わせて準備中であり、まもなくup原稿の校正依頼がある。

⑤土木遺産の広報手法の検討

*栃木県で行われている土木遺産ツアーについて説明があった(資料有り)。

*選奨遺産を中心とした土木遺産巡りのコース設定について、各都県ごとに検討してもらおうよう委員長から依頼があった。

⑥その他

*特になし。

2. 平成26年度選奨土木遺産支部選考委員会(総括)

(1) 委員会開催日と主な議題

①第1回委員会

- ・日時 平成26年5月27日
- ・議題 平成26年度委員会の構成(委員名簿)について
平成26年度土木学会選奨土木遺産の支部推薦候補の決定
平成26年度土木遺産視察について、等

②第2回委員会

- ・日時 平成26年12月2日
- ・議題 平成26年度選奨土木遺産の認定書授与式およびプレス報道等について
平成27年度選奨土木遺産の候補について(各委員提案)
平成27年度土木遺産視察について(視察先・担当者の決定)
HP更新・充実について(経過報告&継続審議)
土木遺産の広報手法の検討(継続審議)、等

③第3回委員会(予定)

- ・日時 平成27年3月13日
- ・議題 平成27年度土木学会選奨土木遺産の支部推薦候補の検討(絞り込み)
平成27年度土木遺産視察について(企画案の提示・検討)
HP更新・充実について(経過報告&継続審議)
土木遺産の広報手法の検討(継続審議)、等

(2) 平成26年度土木学会選奨土木遺産の認定 (関東支部：9件)

*支部推薦：8件

①成宗電車 第一、第二トンネル：千葉県，煉瓦造 アーチ巻6枚巻，1910 (明治43) 年

②羽村取水堰 (投渡堰)：東京都，可動堰 (橋脚)：コンクリート造、作業橋：鋼製、
1909 (明治42) 年

③日光稲荷川流域の砂防堰堤群：栃木県，重力式練積コンクリート堰堤、
1920 (大正9) 年～1937 (昭和12) 年

④信越線 太田切橋りょう：新潟県，水路トンネル (煉瓦と石造りのアーチ型)、
1887 (明治20) 年

⑤水戸市低区配水塔：茨城県，鉄筋コンクリート造、円筒型のバルコニー回廊付き建造遺物、
1932 (昭和7) 年

⑥江ノ島電鉄：神奈川県，煉瓦造トンネル等，1902 (明治35) 年

⑦敷島浄水場配水塔：群馬県，鋼製配水塔，1929 (昭和4) 年

⑧堀切橋：埼玉県，RC ラーメン (橋台)，1933 (昭和8) 年

*公募：1件

①旧親不知トンネル：新潟県，煉瓦造，1912 (大正元) 年

(3) 平成26年度の土木遺産視察

①視察日：9月5日・6日の2日間

②視察員：6名 (内、土木学会選奨土木遺産選考委員会本部から1名参加)

③視察施設：群馬県内の選奨土木遺産8施設

(柳瀬橋・雄川堰・只川橋・剣崎浄水場・前橋利根川の護岸と水制・敷島浄水場・
榛名山麓砂防堰堤群・吾嬬橋)

以上

【新潟会】

- 1) 通常総会 (H26.5.13) 新潟グランドホテル 参加者：77名
- 2) 講演会
- ① 第1回 (総会時 26.5.13) 「経験した災害・調査した災害現場から考えたこと」
放送大学新潟学習センター 客員教授 大川秀雄
新潟グランドホテル 参加者：91名
- ② 第2回 (定例会時 26.11.6) 「最近の海洋再生可能エネルギー研究開発と今後」
日本大学履行学部 海洋建築工学科 准教授 居駒知樹
ホテルイタリア軒 参加者：62名
- ③ 第3回 (「土木の日」記念講演会 26.11.17)
「安全・安心な地域づくりに向けて」 北陸地方整備局 企画調査官 大儀健一
「ビッグデータと社会基盤」 東京大学名誉教授 月尾嘉男
新潟日報メディアシップ 参加者：210名
- 3) 第32回研究調査発表会 (長岡高等専門学校担当) (26.11.5) ハイブ長岡 発表件数：160件参加者：270名
- 4) 研究活動 (H25.4～27.3) コンクリート構造物の診断技術の開発に関する研究委員会—その2—
- 5) 建設事業のイメージアップ活動 (日建連北陸支部と共催) 「土木の日」関連行事
- ① イメージアップ親子見学会
- 長岡班 (26.8.19) 参加者 6組 14名
見学先：国土交通省長岡維持出張所、妙見堰、信濃川大河津分水
- 新潟班 (26.8.21) 参加者 12組 28名
見学先：国土交通省村上道路ステーション、旭橋、信濃川浄水場
- ② 講演会 (第3回講演会参照) (26.11.17)
- 7) 研修会 (26.10.14) 台風のため中止 国道289号 八十里越
- 8) 幹事会 5回
- 9) 懇親会
- ① 総会に伴う懇親会 (26.5.13) 新潟グランドホテル 参加者：78名
- ② 定例会 (26.11.6) ホテルイタリア軒 参加者：61名
- 11) その他
- ① 土木学会選奨土木遺産認定伝達 (土木の日記念講演会時) (26.11.17)
「信越線 太田橋りょう」新潟県

平成26年度 土木学会関東支部山梨会 活動報告

1. 活動目的

山梨県に在住又は勤務する土木技術者（土木関係業務に従事する者）の親睦交流を通じて、土木工学及び土木事業の発展に寄与するとともに土木学会についての意識を高揚し、その活動に貢献する。

2. 活動報告

(1) 総会

日 時 平成26年4月9日（水）

場 所 岡島ローヤル会館

参加者数 20名

(2) 幹事会

毎月1回（1月を除く） 計11回

(3) 講習会「山梨の豪雪災害とコンクリート建造物の維持管理」

日時 平成26年7月17日（木）午後1:30～

場所 敷島総合文化会館 大ホール

参加者数 271名

講演1：2月豪雪の山梨経済に与えた影響と今後に向けた対策

山梨大学大学院 准教授 武藤 慎一

講演2：「構造特性」から見るコンクリート建造物の維持管理

山梨大学大学院 准教授 高橋 良輔

(4) 土木の日見学会：「錦秋の彩甲斐街道を往く ー水資源施設を訪ねてー」

日 時 平成26年11月15日（土）

参加者 77名

見学地：万力八幡トンネル、八幡富士見橋、広瀬ダム、滝沢ダム 他

(5) 研修会

平成26年10月実施予定であったが、台風19号による交通機関の運休等により中止した

以上。

土木学会群馬会 平成26年度 事業報告 (平成26年11月～平成27年1月)

1. 第10回コンクリート研究会

日 時 平成26年11月5日 (水) 13:00～17:30

場 所 前橋工科大学151教室

講 師 「コンクリート舗装の概要」梶尾聡 (コンクリート舗装推進会議)

「コンクリート舗装の現状と課題」加形護 (鹿島道路株)

「道路舗装の長寿命化について」水川靖男 (国土交通省関東地方整備局)

「高耐久コンクリート舗装」佐藤良一 (広島大学)

「群馬県の道路整備構想」本木秀典 (群馬県県土整備部道路企画室)

参加者 139名

2. 選奨土木遺産認定書・銘板伝達式

日 時 平成26年11月14日 (金) 11:00～12:00

場 所 前橋市敷島浄水場配水塔前

参加者 11名

3. 産学官連携インターンシッププログラム高校1年生現場見学会

日 時 平成26年11月28日 (金) 8:30～16:30

場 所 輪組輪久原線道路改良工事現場・
利根川支川真沢砂防ダム工事現場

参加者 44名 (中之条高校1年生40名, 教員1名, 群馬県建設技術センター職員3名)



4. 「土木の日」記念講演会

日 時 平成26年12月3日 (水) 14:30～16:00

場 所 群馬工業高等専門学校J科棟大講義室

講 師 柳川晃 (水資源機構)・稲木道代 (水資源機構)・星野剛広 (水資源機構)

題 目 「日本の水資源と施設—水資源機構の技術—」

参加者 約200名

5. 「イージャーメン橋工事の現場見学会」

日 時 平成26年12月16日 (火) 13:30～16:00

場 所 前橋市南部拠点西地区造成工事 (前橋市横手町)

参加者 15名

6. 「土砂災害に関する講習会」

日 時 平成27年1月23日 (金) 13:00～17:00

場 所 群馬建設会館Aホール

講 師 「最近国内で発生したいくつかの土砂災害事例」若井明彦 (群馬大学大学院)

「気象庁の発表する各種情報について」齊藤清 (前橋地方气象台)

「群馬県の土砂災害対策」坂井努 (群馬県県土整備部砂防課砂防情報係)

「土砂災害対策施設の整備について」松本一明 (同上砂防整備係)

参加者 123名

【今後の予定】

第11回コンクリート研究会「テーマ:表層品質評価」

日時 平成27年2月5日 (木) 13:00～17:00 場所 前橋工科大学151講義室

講師 山田真次 (群馬県建設企画課)・半井健一郎 (広島大学大学院)・酒井雄也 (東京大学生産技術研究所)・舌間孝一郎 (前橋工科大学)・後藤剛 (群馬県道路整備課)・矢部喜堂 (日本鉄筋継手協会)

土木学会支部報告事項記入用紙

	行事名 開催期日、場所等
①講演会・講習会	<p>講演会(平成26年度土木学会関東支部栃木会総会後に実施) 講演「ふくしま発社会インフラの長寿命化を指して」/日本大学教授 岩城一郎氏」 平成26年7月25日(金) 15:50～17:20 宇都宮東武ホテルグランテ</p> <p>平成26年度「土木の日」の集い 講演「我が国における治水システムを踏まえた気候変動への適応のあり方」/国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部水防災システム研究官 深見和彦氏」外 平成26年11月10日(月) 13:30～16:30 栃木県総合文化センターサブホール</p> <p>平成26年度技術研究発表会 講演「火山灰質土地盤の地震時の災害を中心に」/宇都宮大学准教授 海野寿康氏」外 平成27年1月26日(月) 10:00～16:30 栃木県総合文化センターサブホール</p>
②見学会	
③市民向けイベント	日光・足尾エクスカーション 平成26年11月9日(日) 日光福荷川流域の砂防堰堤群、第一松木川橋梁等、土木遺産の視察 参加者29名
④その他(国際交流等)	

【報告支部名:関東支部栃木会】

<平成26年度 茨城会 事業実施報告>

■総務部会

1. 26年度 理事会及び通常総会

開催日時：平成26年7月18日（金）

理事会：12:00～13:00（4階 4-G会議室）

総会：13:15～13:45（4階 4-H会議室）

124名

開催場所：（公財）茨城県開発公社 4階会議室

議 題：（1）平成25年度事業報告および収支決算報告

（2）平成26年度事業計画（案）および予算計画（案）

2. 幹事会

第1回 平成26年4月22日（火）（一財）茨城県建設技術管理センター

第2回 平成26年6月11日（水）（一財）茨城県建設技術管理センター

第3回 平成26年9月 8日（月）（一財）茨城県建設技術管理センター

第4回 平成27年1月20日（火）（一財）茨城県建設技術管理センター

■事業部会

1. 講演会

第1回総会時特別講演会

開催日時：7月18日（金） 14:00～16:15 参加者：124名

開催場所：（公財）茨城県開発公社 4階 4-H会議室

演 題①：「人口減少の中で生活を支えるインフラの整備を考える」

講 師：茨城大学 名誉教授 前茨城大学工学部 教授 横山 功一 先生

演 題②：「産官学の建設技術者による地域課題への取り組みについて」

講 師：（公社）土木学会関東支部 茨城会 総務部会副部会長

前茨城会事務局 園部 武正 氏

第2回建設技術講演会

開催日時：11月14日（金） 13:30～16:00 参加者：105名

開催場所：（一財）茨城県建設技術研修センター 研修センター3階大ホール

演 題①：「鉄道に代わる新たな交通『ひたちBRT』の導入」

講 師：日立市都市建設部新交通推進課 課長 佐藤 祐一氏

演 題②：「コンクリートは火に弱い……？」

講 師：群馬大学大学院理工学府 環境創生部門

准教授 小澤 満津雄 先生

2. イブニングセミナー

・建設技術に関する内外の講師による講習会として会員等の技術力アップを目指す。

奇数月（年3～4回程度）に開催予定。土木学会CPDプログラム認定予定。

（1）第10回イブニングセミナー

開催日時：平成26年10月1日 参加者：41名

開催場所：（一社）茨城県産業会館

演 題①：「土木遺産の保全技術」～主に石垣の補修と復元工事～

講 師：安藤ハザマ 技術本部 環境開発部長 笠 博義 氏

演 題②：「航空交通システムと首都圏空港の容量拡大」

講 師：平田 輝満 氏（茨城大学 工学部 都市システム工学科 准教授）

(2) 第11回イブニングセミナー

開催日時：平成26年12月3日（水） 参加者：41名

開催場所：（一社）茨城県産業会館 大会議室

【第一部】平成26年度選奨土木遺産認定授与式 18:00～18:15

認定箇所：水戸市低区配水塔

授与者：水戸市教育委員会 教育長 本田 清峰氏

【第二部】第11回イブニングセミナー 18:15～20:15

演 題①：社会インフラの維持管理の現状と課題および今後の提案

講 師：山下 英俊 様（(株)KSK 構造診断研究所 代表取締役社長）

演 題②：最新技術の一例

・近赤外分光分析によるコンクリート表面の塩化物イオン濃度の推定

・光ファイバによる構造物のモニタリングシステムの事例

講 師：高岡 満 様（(株)KSK 開発部 課長）

(3) 第12回イブニングセミナー

開催日時：平成27年2月 末日 予定

開催場所：（一社）茨城県産業会館 予定

講 師：松浦 健郎 氏（茨城県土木部河川課（海岸担当）係長） 予定

演 題：未定

3. 建設事業のイメージアップ活動（産・官・学による建設産業、建設事業に関する集客イベントに参加。）

開催日時：平成26年11月9日（日）

開催場所：笠松運動公園（ひたちなか市）

催事内容：土木学会関東支部茨城会活動のPR、土木遺産パネル展示、

土木学会100周年記念PR、クイズラリーへの参加

しなるコンクリート展示（しなる体験付き）

航空交通システムの展示、小型無人ヘリコプターの飛行実演

茨城会ブース来場者数：約500名

4. 現場見学会

第1回現場見学会：「第4回 茨城の土木遺産を訪ねる」（県西編）

開催日：2月3日（火）、 募集予定：30名

見学場所：県西方面

① 結城市内の城下町の街割「見世蔵めぐりコース」

② 関宿城博物館

③ 関宿水閘門及び中之島公園^{注)}

注) 昭和初期の江戸川改修工事に伴い水閘門脇に作られた国交省管理の公園

第2回現場見学会：「土木の日」記念見学会の実施。※一般県民・親子対象

開催日：11月15日（土）、参加者：20名

見学場所：県南方面

- ① 河川改修事業に伴うJR橋の橋梁工事現場
- ② 圏央道阿見東IC周辺区画整理事業の工事現場
- ③ 茨城県霞ヶ浦流域下水道事務所の施設見学

■広報部会




1. 茨城会会報（第5号）の発行（PR用、A4版両面）、平成26年9月1日発行
2. 「茨城会」ホームページの運用 <http://www.jsce-ibaraki.com/>

■調査研究部会




1. 橋梁分科会
 - ・橋梁モニタリング技術に関する検討及び講習会の開催。
2. 土木遺産分科会
 - ・平成26年度土木遺産の推薦及び次年度以降推薦候補の検討
平成26年度：水戸市低区配水塔
平成27年度：筑波山鋼索鉄道（ケーブルカー）
 - ・県内土木遺産の調査及び土木遺産リストの作成
3. （新規）UAV応用活用研究分科会
 - ・UAVによる空撮画像の有効活用
 - ・UAVを用いた環境情報の取得

※ゴシックは、実施済事業です。


平成26年度土木学会支部報告事項（茨城会）

区分	開催日	行事名	開催場所	概要	写真	参加者数	支部名
① 講演会 講習	2014年7月18日	平成26年度第1回 総会時特別講演会	茨城県 開発公社 水戸市笠原町	講演1.「人工減少の中で生活を支えるインフラの整備を考える」 講師：茨城大学 名誉教授 前茨城大学工学部教授 横山 功一 先生 講演2.「産官学の建設技術者による地域課題への取り組みについて」 講師：公益社団法人関東支部 茨城会総務部会副部長 前茨城会事務局 園部 武正様		124名参加	関東支部 茨城会
	2014年9月29日	激甚災害に関する 講演会 主催：茨城大学地球変動適応科学 研究機関(ICAS) 共催：土木学会 関東支部 茨城会	茨城大学 水戸キャンパス 水戸市文京	講演1. フィリピンにおける気候変動影響と適応策について 講演者：フィリピン気象庁気候データセクション長 ロザリナ・デ・グズマン氏 講演2. 東日本大震災の被害と復旧復興に係る地盤工学的課題について 講演者：東北大学大学院工学研究科 風間 基樹 教授		全体70名 (茨城会会員として42名参加)	関東支部 茨城会
	2014年11月14日	平成26年度第2回 建設技術講演会	茨城県 建設技術管理センター 水戸市青柳町	講演1.「鉄道に代わる新たな交通『ひたちBRT』の導入」 講師：日立市都市建設部新交通推進課 課長 佐藤 祐一氏 講演2.「コンクリートは火に弱い？」 講師：群馬大学大学院理工学府 環境創生部門准教授 小澤 満 津雄氏		105名参加	関東支部 茨城会

平成26年度土木学会支部報告事項（茨城会）

<p>② 見学会</p>	<p>2014年11月15日</p>	<p>土木の日見学会</p>	<p>茨城県 ・取手市井野 ・稲敷郡阿見町 ・土浦市湖北 2丁目</p>	<p>一般対象に県内大型工事 現場見学会 ・河川改修事業に伴うJR橋の橋梁工 事現場見学 ・圏央道阿見東IC周辺区画整理事業 の工事現場見学 ・茨城県霞ヶ浦流域下水道事務所の 施設見学</p>		<p>一般参加 20名</p>	<p>関東支部 茨城会</p>
<p>③ 市民向け イベント</p>	<p>2014年10月1日</p>	<p>第10回 イブニングセミナー</p>	<p>(一社)茨城県産 業会館 水戸市桜川 2丁目</p>	<p>講演1. 土木遺産の保全技術 ～主に石垣の補修と復元工事～ 講演者: 安藤ハザマ 技術本部 環境開発部長 笠 博義 氏 講演2. 航空交通システムと首都圏 空港の容量拡大 講演者: 茨城大学 工学部 都市シス テム工学科准教授 平田 輝満 氏</p>		<p>41名参加</p>	<p>関東支部 茨城会</p>
<p>2014年11月9日</p>	<p>建設フェスタ2014 出展参加</p>	<p>茨城県 ひたちなか市</p>	<p>1. しなるコンクリート体験 2. 選奨土木遺産パネル展示 3. クイズラリーへの参加 4. 土木学会設立100周年記念 関係PR 5. ビデオの放映とクイズの実施 6. 航空交通システムの展示 7. 小型無人ヘリコプター飛行実演</p>		<p>茨城会ブース 来場者数 約500名</p>	<p>関東支部 茨城会</p>	

平成26年度土木学会支部報告事項（茨城県）

<p>2014年12月3日</p>	<p>第11回 イブニングセミナー</p>	<p>(一社)茨城県産 業会館 水戸市桜川 2丁目</p>	<p>【第一部】H26年度選奨土木遺産 認定授与式 【第二部】イブニングセミナー 講演1. 社会インフラの維持管理の 現状と課題および今後の提案 講演者:(株)KSK 構造診断研究所 代表取締役社長 山下 英後 氏 講演2. 最新技術の一例 講演者:(株)KSK 開発部 課長 高岡 満 氏</p>		<p>41名参加</p>	<p>関東支部 茨城県</p>
<p>④ その他 (国際交 流等)</p>	<p>該当無し</p>					

報告事項の対象期間:H26.4.1~H27.1月30日
【報告支部名:関東支部 茨城県】